

新年挨拶

新年にあたり皆様お変わりございませんか。

昨年は、東日本大震災という大惨事が発生し大きな被害が東北地方を中心に襲ったことは記憶に新しいことと思います。道建協にとっても、「アスファルト混合物の事前審査制度の継承」、「舗装施工管理技術者試験の実施」という新たな業務が加わり一年間を通して、休みのない運営となりました。我々を取り巻く環境は、「コンクリートから人へ」に始まりインフラ整備を置き去りにした厳しい環境が今も続いています。厳しい厳しいと言ったところで何も変わることがありません。

ウサギから龍へと変わる新しい年においては、同じ所を飛び回っていただけでは環境は良くなりません。関係業界、監督官庁、得意先を巻き込んだトルネードを起こし、天空に向かって明るく前向きに昇っていくではありませんか。「ネバーギブアップ」を合い言葉に参加企業会社がお互いに切磋琢磨し、「日本の道路は自分たちが造り守っていく」という目標を持ち一年間また進んでいこうではありませんか。

道建協中部支部の構成会社、そしてそこに従事しておられる従業員皆様のご支援の下で今年も年間計画を立て一つ一つ実行して参ります。よろしくお祈りします。

結びに構成会社様のご繁栄と協会員全員のご多幸をご祈念申し上げます。ご安全に!

支部長

岩田 裕美

株式会社NIPPO 中部支店
執行役員支店長



新年明けましておめでとう御座います。

旧年中は日本道路建設業協会支部会員の皆様には、当支部の活動に対しまして、多大なご支援とご協力を賜り、心より厚く感謝申し上げます。

昨年は1月26日の新燃岳の噴火で年が明け、3月11日には未曾有の東日本大震災、また当地方では12・15号台風の襲来が有り、災害の多い年でありました。当協会といたしましても、中部緊急防災隊として、震災、台風災害に対し、会員皆様のご協力を得て、救援活動の一助を担えたことも忘れてはなりません。今年こそ災害の無い穏やかな年となりますよう切に願うところであります。さて東北地方の復興に向けた具体的な議論も行われているところでありますが、当中部地方でも話題に上っている東海・東南海・南海地震等大災害の備えとして、ミッシングリンクの早期解消が求められています。特に新東名・新名神、紀勢、東海環状、三遠南信などの早期開通が待たれるところであります。このことは道路に携わる我々にとって、今まで悪とされてきた「インフラ整備」が根本から見直され、真に必要なインフラ整備の必要性が国民皆様の間で再認識され、社会資本整備の一翼を担うものにとって、非常な追い風になることは間違いありません。また最近TPPの話題も盛んに行われており、グローバル化に対応した、真に足腰の強い業界への脱皮が望まれる年になると思います。

その為にも会員各社のたゆまない努力が必要になると思われれます。今年こそは干支の昇竜(辰)にあやかり、良い一年であることを年初に願うばかりであります。

結びに、当協会各社が一体となり、しっかりスクラムを組んで、今後望まれる社会資本整備に少しでも貢献していきたいと思ひます。協会会員皆様方の御健勝と、会員各社の御隆盛を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

幹事長

川端 清太

鹿島道路株式会社 中部支店
常務執行役員支店長

